



TITLE:

大戦中の佛蘭西の通貨

AUTHOR(S):

島本, 融

CITATION:

島本, 融. 大戦中の佛蘭西の通貨. 経済論叢 1928, 27(1): 132-138

ISSUE DATE:

1928-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/129645>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號 一 第

卷七十二第

行發日一月七年三和昭

論 叢

一般社會學の概念

文學博士 米田庄太郎

經濟靜態について

文學博士 高田 保馬

目的 稅 論

法學博士 神戸 正雄

保險と偶然

經濟學博士 小島昌太郎

說 苑

計算貨幣と交換貨幣

經濟學士 福井 孝治

經濟法の概念

經濟學士 橋本 文雄

雜 錄

希臘現代の經濟學

法學士 山口正太郎

大戰中の佛蘭西の通貨

經濟學士 島 本 融

フォン・ペロウ教授を憶ふ

經濟學士 上田藤十郎

獨逸都市の財政統計

經濟學博士 沙見 三郎

大戦中の佛蘭西の通貨

島 本 融

最近ボアンカレー内閣の通貨政策を調べるに當つて、大戦中の佛蘭西の通貨事情を顧みる機會を得た。戦前比較的健全な通貨とせられてゐた法貨^{フランク}を今日の如き事情に至らしめた第一の原因は何と言つても戦争でなければならぬ。

一 戦時財政と通貨の膨脹

戦争の爲に其財政に甚しい創痍を受けた事は各交戦國とも同じであつた。只佛蘭西は戦前よりその財政に著しい缺陷の存在してゐた事、自ら戦争の中心的地位に立たねばならなかつた事、重要な産業地域を侵害された事等の爲に、その程度に於て殊に甚しきものがあつた。戦争中の豫算の状態を示せば次の如くである。

計	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
歳出	20,751	33,200	36,688	46,651	56,688
借入以外 の財源に よる歳入	4,166	4,166	4,166	4,166	4,166
不足	16,585	29,034	32,522	42,485	52,522
歳出總額 に對する不 足の割合	80.5	87.5	88.6	91.1	92.6

此の如き巨額の不足を満す爲に選ばれた手段は第一に佛蘭西銀行よりの借入である。同行が政府に貸上金を成す事は著名な先例の存する所であつて、一九一一年十一月十一日の協定に於ても此点に就いては規定を見た。その協定は一九二〇年十二月三十一日までその効力を有する筈であつて、銀行は之によりて動員の節は二十九億法を國家の用に供する義務を負つて居た。然し消費された戦費が最初より餘り巨大であつたので此額ではもはや充分でなかつた。そこで一九一四年九月二十一日に新協定が結ばれ(全十二月二十六日承認)猶三十一億を提供する事となつた。それで總額六十億

となつた。然し此額は順次繼續的に増加せられ、銀行券發行の制限額も貸上金限度の擴張に比例して自動的に高められた。之等に伴つて貸上金及び銀行券發行高の實數も著しい増加を示したのは言ふ迄もない。茲に紙幣による通貨膨張が起つたのである。

次に佛蘭西政府は同様の目的の爲に多額の公債を募集した。これによりては通貨の膨張は起らなかつたらうか。之等の政府證券が銀行にて割引せられ、その際預金貨幣の創設せらるゝ事により通貨膨張の起る事も考へ得る所である。然し佛蘭西にあつては小切手の使用が他國に比して發達してゐなかつたから、此の原因による通貨膨張は少かつたのではないかと考へられる。此の間の事情を覗ふ爲に主要信用銀行の業績を掲げる。(單位百萬法)

一、割引手形及び國庫證券

クレディ・リヨネ	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
	1,158,000	1,191,000	1,191,000	1,191,000	1,191,000	1,191,000

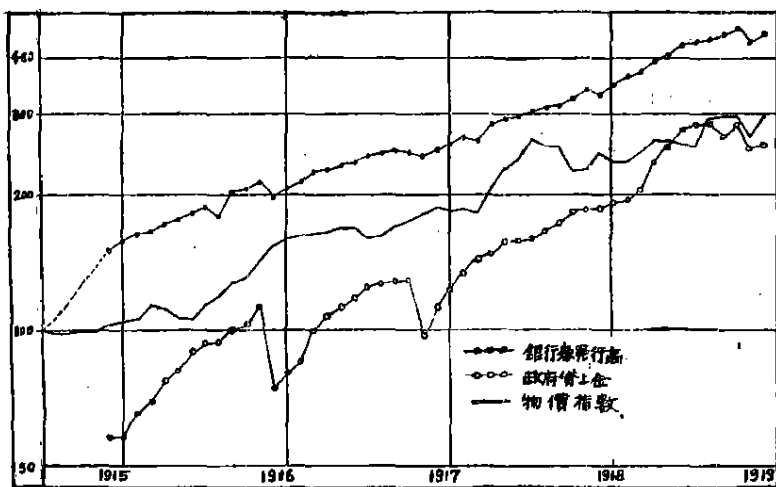
- 佛蘭西銀行の29億に對してアルジェリ銀行に1億の協定あり合して30億となる計算であつた。
- 米國上院金融委員會報告 Foreign currency and exchange investigation. (Serial 9, vol. 1, p. 311.)
- F. Ehrensperger, Die Pariser Börse und die französischen Bankinstitute

二 通貨膨脹と物價

斯の如き通貨の膨脹に對して通貨の價値は如何なる事情にあつたか。その点に就いて先づ通貨の對内價値の方面を物價の變動によりて考察しやう。只普通物價の變動を知るには物價指數によらるゝのであるが、物價指數そのものゝ性質に就いての疑を廢し、適當なる一般物價指數によれば物價の變動の大體を知り得るものと假定するも、佛蘭西の物價指數は甚だ不完全であつて充分その目的に適しないやうである。故にもとより之を以て充分完全なりと考へるのでないが、今は米國商務省及び戰時產業局調製の佛蘭西物價指數を採用して、通貨の膨脹と比較してみる。

圖によりて之を示して見ると、銀行券發行高の増加は物價騰貴よりやゝその程度が強いやうであるが、此の点には注意すべき事情が存在する。即ちそれは戰前に於ける硬貨の流通である。その額を推測する事は誠

佛蘭西に於ける通貨膨脹と物價



備考、銀行券發行高及び政府債上金は各月末現在高により一九一四年七月の發行高を一〇〇とせる指數である。

- 6) 此指數は上記兩官廳にて佛蘭西統計局毎月發表の四十四個の貨物の價格により戰前十二ヶ月間の平均價格を100とせる價格指數を調製し之をその大小により配列し、第二十二位及び第二十三位の平均をその月の物價指數とせるものである。(Federal reserve bulletin, June 1, 1919. p. 543-6)

に困難であるが、假りに或る論者の論する如く之を大約四十億法⁷⁾とするとときは、開戦當時の通貨は略々百億法となり、然も開戦後金貨は直ちに、銀貨も少しく後れて交易界からその姿を消したと考へらるゝから、前掲圖表に於ける通貨膨張の曲線の如きも變化を來し、通貨の膨脹と物價騰貴との間には大體一致の傾向を見るのである。此の点は近時一部論者の所謂、インフレイションの初期に於ては、通貨膨張の曲線が物價騰貴の曲線を上廻るとの歸納的説明の⁸⁾少くも佛蘭西の場合には精確ならざるを思はしめる。

註 右の外同じく戦前の硬貨流通につきては Jankovich, Beiträge zur Theorie des Geldes, S. 132 は三〇、九億法なる評價をしてゐる。何れも死蔵を含まない。之に對してモリス・パレーの「紙幣の増發及び死蔵と物價騰貴との關係」(大藏省調査月報第九卷四四二頁)には死蔵を含めて五十六億法となしてゐる。

三 爲替の釘付政策

法の對内價值は右に述べる如き騰貴をなしてゐる。

之を他の諸國に比較して見ると、敏速でないがその程度は誠に著しいものがある。¹¹⁾故にかの購買力平價説によれば、法の對外價值は之に従つて下落をみなくてはならぬやうである。

又他面その對外收支を見るに、佛蘭西は戦前著名な債權國であつて、一九〇九—一三年の五ヶ年間に於ては、ヴィジブル貿易(金銀を含む)の入超平均一、四五六百萬法に上つたのに對し、海外投資より生ずる収入は一、七〇〇百萬法、運賃収入二二五百萬法、觀光客収入六二五百萬法、其他一五〇百萬法に上つた。勿論之に對して、支拂勘定に於て佛國証券に對する外國人投資の利息等が存在してゐるが、尙少くも年一、〇〇百萬法に達する新資金を得、之を海外に再投資する事ができた。¹²⁾然るに開戦以來一九一四—一八年の五年間に就いて之を見るに事情は著しく變化してゐる。即ち此五年間の國際貸借は資本輸出入を除けば次の如くである。¹³⁾(單位百萬法)

7) Aftalion; Monnaie, prix et change, p. 10.

8) 前掲、金銀委員會報告 p. 313.

9) Aftalion. 上掲書同頁。

10) B. v. Jankovich, Beiträge zur Theorie des Geldes, S. 28 (大藏省理財局貨幣論叢第十一卷貨幣論の實證的研究 28—9 頁)

支拂勘定 受取勘定

貿易差額	四七、二八四	二、三一九
對殖民地貿易差額	—	—
金銀輸出入超過	—	二、四三八
外國旅行者出費	—	一、〇〇〇
外國軍隊の消費	—	八、六五〇
海運收入	—	五、二〇〇
保險收入	—	三〇〇
通過貿易收入	—	一二五
受取額	—	一、〇一〇
利子	一、〇〇〇	—
支拂額	七八二	—
政府支拂額	—	—
計	四九、〇六六	三〇、一三二

即ちこれは從來の主要受取項目たりし利子收入が、露西亞、埃匈、巴爾幹等の擾亂、及び戰時中行はれたる所有外國上級証券の海外賣却等により、杜絶乃至減少せるによるのであつて、右の資本輸出入を除ける計算によれば一八、九三四百萬法の支拂超過と言ふ事になり、その上戰時中聯合國政府へ貸付けたる九、九〇六百萬法（全じく Meynial 氏に據る）の資本輸出を加ふる時は二八、八四〇百萬法の支拂超過となつてゐる。

事情何れも斯くの如くであるから、爲替は一見大きな下落をなすを避け得ざる如く考へらるゝのであるが、例へば今紐育市場に就いて之を見るに、戰爭の勃發と全時に未曾有の騰貴をなし、それが一九一四年末には下落し初め、その後ずつと下落を續けたが、それは一九一六年四月迄に一六一¹¹仙に達したのみである。而して其後相場に驚くべき安定を示し、ずつと戰時を通じて一七仙見當に止まつたのである。之如何なる理由によるか。即ち外國資本の輸入により、所謂釘付政策を行ひたるによるに外ならないと考へられる。

然らばその釘付政策は如何に行はれたか。此の經過を二期に分つ事ができる。第一期は一九一五年四月より一九一七年四月に至り、第二期は米國參戰より一九一九年三月に及ぶ。此兩期に於て釘付政策の實行方法に於いて異なる点を見るのである。第一期に於ては巨大なる海外購入の對價は一部は佛蘭西が諸外國にて獲得せる信用により、一部は英佛共同公債の發行により、猶一部は英國國庫より交付されたる弗貨商業手形

- 11) Federal reserve bulletin, June 1, 1919, p. 544.
- 12) D. T. Jack, Restoration of european currencies p. 113. 以下。
- 13) Meynial氏の評價に據る。（大藏省理財局、主要國財政經濟現況、昭和三年一月64頁）
- 14) Moulton and Levis, French debt problem. p. 354.

により決済された。第二期に於ては米國は消極的援助の地位を捨て、積極的に法及び磅の聲價の維持に協力を惜まざる事となつた。即ち米國政府は佛蘭西政府に巨額の直接貸借をなす事となつた。その額は一九一七年五月より一九二〇年九月までの間に二、九九七、四七七、八〇〇弗ⁱⁿに及び今日所謂對米戰債の主要部分として残つてゐる。

即ち以上の如き外國資本の輸入の方法により、對外支拂の必要を支辨したる事が法爲替^{フレンク}の釘付をなし得たる所以である。戰爭の終結後此の人為的方策の不可能となるや、事情の一變したるのみならず、之が却つて法爲替^{フレンク}の癌腫となつた事は了解し易き所であらう。
